

(5) 入試関係

2022 年度においては、新型コロナウイルス感染症状況に配慮しつつも対面での福岡大学オープンキャンパスを開催することになった。感染予防対策としては、人数制限と通常の予防対策（マスク、換気、手指消毒）が行われた。人数制限は、従来開催日 1 日であったものを 2 日にわけ、事前予約を午前 9:30～12:30 と午後 13:30～16:30 においてそれぞれ 4000 人入れ替えを行った。高校生にとっては、2 年連続で大学キャンパスに入構できなかったことから、多くの関心を持って生徒が参加しており、理学部においては、生徒および保護者が概算で 2000 名弱の参加があった。しかしながら、入試全体の生徒の数の減少も著しいことさらに引き続き、入学試験での感染に対する不安も引き続きあり、志願者数の減少も考えられた。

令和 4(2022)年度 私立大学・短期大学等 入学志願動向 によれば、令和 4 年度は 18 歳人口が前年度に比べ 2 万人減少しており、志願者数、受験者数は前年度から減少したと報告されている。また、大手進学予備校の河合塾における入試情報によれば、福岡大学においても、おおむねその動向は変わらず志願者前年比は 93%となり減少している。

以下に、理学部の【学校推薦型選抜（A 方式）】と【一般入試】の各方式での志願者数変化について説明する。

【学校推薦型選抜（A 方式）】

志願者は全学では 6.6%の増加を示した。理学部は 2022 年度の 61 名から 2023 年度は 68 名と 7 名（11%）の明らかな増加だった。学科・インスティテュート単位では、地球圏科学および社会情報インスティテュートが顕著に増加しており、一方応用数学科および化学科では若干減少にあった。昨年度に引き続き、福岡大学理学部を第一希望とする受験生が学校推薦型選抜を積極的に受験したと考えられる。

【一般入試】

- ・系統別： 志願者は、全学では 2.9%の減少だった。理学部においても 2022 年度の 1764 名から 2023 年度は 418 名と 70 名（14%）の減少だった。学科・インスティテュート単位においても、軒並みの減少であった。
- ・前期： 志願者は、全学では 4.3%の減少だった。理学部においても 2022 年度の 1764 名から 2023 年度は 1670 名となり、5.3%（94 名）の減少だった。学科・インスティテュート単位では、物理科学科（17%）および地球圏科学（7.4%）においては顕著に増加していたが、他は全て減少した。
- ・後期： 志願者は、全学では 8.7%の減少だった。理学部においても 2022 年度の 67 名から 2023 年度は 57 名と 10 名（17%）の減少だった。後期入試は志願者が少ないが、理学部学科・インスティテュート単位では、物理科学科においては顕著に増加していたその一方、応用数学科および化学科では若干減少にあった。

全体としては、学校推薦型選抜は明らかな増加傾向が見られる。これは、入試課の報告であるように、高等学校の進路指導において年内入試を進める傾向の現れであると考えられる。一方一般入試は昨年度と比べると減少傾向が見られるが、こちらは全国の私立大学・短期大学等

および福岡大学の全体の入試動向を考えると予測される減少だと思われる。その中でも学科・インスティテュート単位では、物理科学科は回復が見られる。

今後さらに 18 歳人口の減少が予測されており、理学部全体としての積極的な広報活動および年内入試への入試対策が必要と考えられる。